

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みにになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

尿路結石症診療ガイドライン第2版 2013年版

尿路結石症診療ガイドライン 2013年版改訂委員会（委員長：鈴木孝治 金沢医科大学医学部泌尿器科学名誉教授）

金原出版、2013年9月20日 第2版第1刷発行

Strength of Recommendation

- A: 十分なエビデンスがあり、推奨内容を日常診療で実践するように強く推奨する。
- B: エビデンスがあり、推奨内容を日常診療で実践するように推奨する。
- C1: エビデンスは十分とはいえないが、日常診療で行ってもよい。
- C2: エビデンスは十分とはいえないので、日常診療で実践することは推奨しない。
- D: 患者に害悪が及ぶ可能性があるというエビデンスがあるので、日常診療で実践しないように推奨する。

■1 漢方薬（猪苓湯）

疾患:

尿路結石

CPG 中の Strength of Recommendation:

C1: エビデンスは十分とはいえないが、日常診療で行ってもよい。

有効性に関する記載ないしその要約:

『CQ10: 尿管結石の自然排石を促進する薬剤にはどのようなものがあるか?』に対して、下記の記載がある。

『ウラジログシエキスや漢方薬（猪苓湯）などは尿管結石排石促進作用に対してよく用いられてきたが、エビデンスレベルの高い報告はない。しかし、その効果を否定するものではない。

解説: わが国では1970年代より、結石の排石促進目的にウラジログシエキスや猪苓湯などの漢方薬が使用されてきた。これらの薬剤は尿路結石症に適応があるが、その効果について

てエビデンスレベルの高い報告はなく、排石促進効果の性格な評価は困難である。しかし、その効果を否定するものではなく、これらの薬剤による MET も今まで通り施行しても良いと考えられる。』